

SNS サイトにおける投稿時確認事項調査

分担研究者 坪井 宏仁 (滋賀県立大学人間看護学部)
吉田 直子 (金沢大学医薬保健研究域附属 AI ホスピタル・マクロシグ
ナルダイナミクス研究開発センター)
研究協力者 張 若愚 (金沢大学大学院医薬保健総合研究科創薬科学専攻)

研究要旨

【目的】 ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service, SNS) を介した医薬品の個人間取引事例が確認されており、医薬品の不適正流通経路の 1 つになっていることが懸念されている。SNS を介した不適切な医薬品販売・譲渡の抑止に資するため、本研究では、日本国内で利用されている主な SNS サイトにおける利用規約を調査した。

【方法】 日本国内で利用されている主な SNS (Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、TikTok、LINE および Telegram) を対象に、当該サイトの利用規約や各ポリシー等を観察し、禁止事項等について調査を行った。

【結果・考察】 本調査の対象とした 7 サイトのうち、6 サイト (Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、TikTok、LINE) は利用規約または各ポリシーにおいて、禁止事項に関する記載があった。さらにそのうちの 5 サイト (Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、TikTok) は、医薬品に関するポリシーについて記載されており、それらの販売、購入、取引等を促す投稿は禁止されていた。医薬品については、規制物品として記載されていることが多く、医薬品、処方薬、市販薬のほか、麻薬、大麻、違法薬物、非医療用の薬物等の表現で記載されていた。偽造品についても禁止されていたが、偽造医薬品として明記されているサイトはなかった。LINE では、医薬品には触れていないが、薬物乱用を誘引または助長する表現を禁止していた。また、これらの SNS は、利用規約やポリシーに違反した場合に、コンテンツの削除やアカウントの停止等の措置をとることが記載されていた。Telegram の利用規約において、医薬品や偽造品に係る禁止事項は記載されておらず、利用者がアカウントを乗っ取られた場合等を除いては、事業者は介入しないとしていることが分かった。

【結論】 日本国内で主に利用されている SNS サイトのほとんどにおいて、それぞれの利用規約により、医薬品の取引を促す投稿が禁止されていることがわかったが、その記載内

容・具体性は、サイト間で異なっていた。利用者が精読し理解していない可能性もあり、利用者に対し、適切に注意喚起する方策が必要であると考えられた。また、利用規約やポリシーに違反した場合には、当該投稿の削除やアカウント停止の措置をとれることから、監視を強化し、違反行為をより迅速に見つけ、監視・指導できる体制を整えることが必要であると考えられた。

A. 研究目的

インターネットの急速な発展により、家にいながらにして買い物ができる生活様式が浸透している。様々な商品を求める人々のニーズは、同時にオンライン取引の発展を加速させている。オンラインマーケットには、一部の企業によるインターネット販売のほか、個人間の取引も存在する。日本において、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（social networking service, SNS）を介した個人間取引経験者は 21.5%、約 5 人に 1 人の割合であった¹⁾。スマートフォンの普及・発展によって、場所や時間に制限されることなくコミュニケーションが取れるようになったことや、匿名性が高いまま取引ができるようになったことが背景にあると考えられている²⁾。

しかし、SNS 利用規約を全部読んで同意するユーザーはたったの 5.5%であった³⁾。関係する法律や利用規約も知らずに、個人が無許可で医療用医薬品等を売買することは、非常に危険な行為であり、国民の保健衛生上問題である。我々の今までの調査において、SNS を介した医薬品の個人間取引が疑われる投稿が散見されており、医薬品の不適正流通経路の 1 つとなっていることが懸念される⁴⁾。

本研究では、医薬品の不適正流通抑止に資するため、代表的な SNS の利用規約

における投稿時確認事項ならびに禁止事項に関して調査を行った。

B. 研究方法

現在、日本国内で主に利用されている SNS⁵⁾として、Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、TikTok、LINE、および Telegram を対象に、利用規約やポリシーを調査した。また、検索が可能な場合は、「医薬品」、「出品」、「偽造品」のキーワードを用いて、医薬品出品や偽造医薬品に関するポリシーがあるかどうか確認した。

C. 結果

C-1. Twitter

Twitter のヘルプセンター>「ルールとポリシー」>「Twitter ルール適用の概要」（<https://help.twitter.com/ja/resources/rules>）において、禁止事項が約 1 分程度のショートムービーにまとめられていることを確認した。暴力禁止などの禁止事項の英文がアニメーションで表示されるものであった。禁止事項の詳細について、「Twitter ルール」（<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/twitter-rules>）を確認したところ、「違法または特定の規制対象商品・サービス: 非合法的な目的で、または違法な活動を促進させるために Twitter のサービスを利用することを禁じます。これには違法

な物品・サービス、および特定の種類の規制物品・サービスの販売、購入、または取引の促進が含まれます。詳細はこちら（リンク先：<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/regulated-goods-services>）をご覧ください。」との記載があった。

Twitterでは、「違法または特定の規制物品 / サービス」（<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/regulated-goods-services>）として、非合法的な目的で、または違法な活動を促進させるためにTwitterのサービスを利用することを禁じる旨が明記されていた。これには違法な物品・サービス、および特定の種類の規制物品・サービスの販売、購入、または取引の促進が含まれ、以下が例示されていた。

- 偽造品および虚偽のサービス
- 薬物および規制物質
- 人身売買
- 絶滅危惧種または保護種に由来する物品
- 性的サービス
- 不法に入手された物品
- 武器（銃器、弾薬、爆発物等）および武器（爆弾や3Dプリンター銃など）製造の説明書

さらに、偽造品に関するポリシー（<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/counterfeit-goods-policy>）として、Twitterプラットフォーム上での偽造品を販売または宣伝することは禁止されていることも明記されていた。

「Twitter上の警告とその意味」（<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/notices-on-twitter>）では、Twitterルールに違反する行為があった場合には、

アカウントまたはツイートに警告を表示する場合があると記載されていた。違反ツイートに対する措置として、以下の記載があった。

- Twitterルールに違反したツイートの削除に関する警告: Twitterルールに違反しているツイートのうち、ツイートしたアカウントによりまだ削除されていないものについては、ツイートの手前に警告が表示されます。そのアカウントは該当のツイートが削除されるまでロックされます。
- 削除されるまで違反ツイートを非表示にする: Twitterがツイートの削除を要請して実際に削除された後は、削除されたことを伝えるための通知が14日間表示されます。

また、アカウントに対する措置として、Twitterルールに著しく違反している、または通知後も違反を繰り返していると判断した場合、Twitterはアカウントレベルで対応することが記載されていた。アカウントがロックされるケースの他、Twitterによる最も厳しい対応として、アカウントの永久凍結（閲覧対象から削除され、違反者は新しいアカウントを作成できなくなる）されることが記されていた。

また、ヘルプセンターの検索機能を利用して、各対象キーワードを検索した結果、「医薬品」で2件、「出品」で34件、「偽造品」で12件がヒットした（検索日: 2022年4月14日）。

「医薬品」で検索した結果、「Twitterショッピングに関するポリシー」（<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/retail>）

policies/shopping-policies) で、「禁止されている商品カテゴリー」 (<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/shopping-policies#categories>) において、以下の記載が見つかった。

- 違法薬物、処方薬および市販医薬品、薬物関連品: たとえば THC (テトラヒドロカンナビノール) や CBD (カンナビジオール) を含む商品、薬物検査に合格するために使われる商品、薬物検査を欺くための商品や人工尿などがこれに該当します。
- 規制されている医療機器: たとえばコンタクトレンズ、血糖値測定器、さく乳機などがこれに該当します。

「出品」で検索した結果、「Twitter ショッピングに関するポリシー」、「禁止されている商品カテゴリー」、「違法または特定の規制物品/サービス」、「偽造品に関するポリシー」に加えて、「違反の報告」 (<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/twitter-report-violation>) の項目が見つかった。

「違反の報告」には、Twitter ルールおよび利用規約に違反している可能性のある事例の報告方法が記載されており、「特定の種類の違反を報告する方法」 (<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/twitter-report-violation#violations>) に、「偽造品の販売またはプロモーション: 偽造品に関するポリシーについてはこちら (偽造品に関するポリシー: <https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/counterfeit-goods-policy>)、違反の報告についてはこちら (知的財産権に関する問題のヘルプ:

[\[it\]\(https://help.twitter.com/ja/forms/ipi/counterfeit\)\) をご覧ください。」との記載があった。](https://help.twitter.com/ja/forms/ipi/counterfe</p></div><div data-bbox=)

「偽造品」による検索結果は、「医薬品」または「出品」で抽出できた内容と重複していた。

C-2. YouTube

YouTube のヘルプセンター (<https://support.google.com/youtube/?hl=ja&sjid=5106981972871556484-AP#topic=9257498>) の「ヘルプトピックの閲覧」>「ポリシー、セキュリティ、著作権」>「YouTube のポリシー」 (https://support.google.com/youtube/topic/2803176?hl=ja&ref_topic=6151248&sjid=5106981972871556484-AP) にアクセスした。

「YouTube のポリシー」に、「法律に関するポリシー」として以下の項目のリンクがあった。

- 著作権
- 商標
- 偽造品
- 名誉毀損
- ローカル音楽に関するポリシー
- その他の法的申し立て
- その他の法的な問題の詳細

「偽造品」 (https://support.google.com/youtube/answer/6154227?hl=ja&ref_topic=6154211&sjid=5106981972871556484-AP) において、偽造品に対する申し立てを行うことができること、Google の偽造品に関するポリシーに違反している場合はそのコンテンツが削除されることが記載されていた。「その他の法的申し立て」 (https://support.google.com/youtube/answer/9996224?hl=ja&ref_topic=6154211&sjid=5

[106981972871556484-AP](https://support.google.com/youtube/topic/6154211?hl=ja)) において、YouTube が法的な申し立てと見なすのは、問題の当事者またはその法定代理人から通知された場合に限ると記載されていた。医薬品に関する記載は、いずれの項目においても見つからなかった。「法律に関するポリシー」(<https://support.google.com/youtube/topic/6154211?hl=ja>) に、「YouTube のポリシー」>「法律に関するポリシー」と同様の項目が記載されており、ポリシー違反や法律違反に該当していると思われる場合、コンテンツを報告できることが記載されていた。

YouTube のヘルプセンター>「ヘルプトップピックの閲覧」>「ポリシー、セキュリティ、著作権」>「YouTube のコミュニティガイドライン」(https://support.google.com/youtube/answer/9777243?hl=ja&ref_topic=6151248&sjid=1378744930420947750-AP) には、「規制品」の項目があり、「一部の商品は YouTube で販売することができません。販売が許可される商品と禁止される商品についてご確認ください。」と記されており、「違法または規制対象の商品やサービスの販売に関するポリシー」へのリンクがあった。「違法または規制対象の商品やサービスの販売に関するポリシー」(<https://support.google.com/youtube/answer/9229611?sjid=5106981972871556484-AP>) には、1分30秒程度のショートムービーがあり、59秒から「違法または規制対象の商品を直接またはサイト経由で販売することは制限されています。では処方箋なしで医薬品を販売するサイトへのリンクが含まれた動画はどうでしょうか？詳

しくはこうした商品の販売に関するヘルプセンターの記事をご覧ください。」とのテロップが流れた。動画の下には、「特定の規制対象の商品やサービスを販売することを目的としたコンテンツは、YouTube で許可されていません。」との記載があり、許可されていない事項として、以下が挙げられていた。

- 麻薬などの規制薬物
- 処方箋なしの医薬
- 無資格の医療サービス
- ダークウェブで薬物を購入する方法の説明
- 処方箋が不要なオンライン薬局へのリンクを含める

また、このポリシーに違反するコンテンツへの措置として、違反しているコンテンツは削除されることや利用規約違反が繰り返し認められる場合、チャンネルやアカウントが停止される等が記載されていた。

YouTube ヘルプの検索機能を利用して、「偽造品」や「出品」を検索したが、利用規約等については、上記と同じページにアクセスする結果となった。

C-3. Instagram の調査結果

「ヘルプセンター」>「利用規約とポリシー」>「利用規約」(https://ja-jp.facebook.com/help/instagram/581066165581870/?helpref=hc_fnav)>「利用者による誓約」の項目において、知的財産権などの他者の権利を侵害したりする行為(著作権侵害、商標侵害、偽造、海賊品など)は禁止されていることが記載されていたが、医薬品に関して明示された記載はなかった。「コンテンツの削除およびアカウントの停止または終了」

の項目において、ポリシーに違反した場合には、コンテンツや情報が削除されることがある旨、記載されていた。

「ヘルプセンター」>「利用規約とポリシー」>「Instagram 購入者保護ポリシー」
(https://help.instagram.com/300557977301126/?helpref=hc_fnav) においても医薬品に関する記載はなかった。

なお、Instagram のコマースポリシーは Facebook のログインページにリンクしていた
(https://help.instagram.com/396314741132037/?helpref=uf_share)。

ヘルプセンターの検索機能と利用して、「医薬品」を検索したところ、大麻の販売に関する Instagram のポリシーとして、Instagram のプラットフォームを使用して個人や団体が大麻を宣伝または販売することを禁じていることが記載されていた
(https://ja-jp.facebook.com/help/instagram/789164081427334/?helpref=uf_share)。また、偽造品について、偽造品の製造、宣伝、販売は商標権を侵害する行為の 1 つであること、偽造品を販売または宣伝していると思われる Instagram 上のコンテンツを報告できることが記載されていた
(https://ja-jp.facebook.com/help/instagram/499796697033328/?helpref=uf_share)。

C-4. Facebook

Facebook の利用規約とポリシー
(https://www.facebook.com/policies_center/) から、利用規約
(<https://www.facebook.com/legal/terms>) を確認したところ医薬品に関する記載は見つからなかった。規約に違反した場合の

措置として、運営会社が利用者への通知、コンテンツの削除、特定機能へのアクセスの停止・制限、アカウントの停止、法執行機関への相談など、適切な処置を講じることがある旨、記載されていた。

「コミュニティ規定」
<https://transparency.fb.com/ja-jp/policies/community-standards/?source=https%3A%2F%2Fwww.facebook.com%2Fcommunitystandards>) において、「暴力行為および犯罪行為」>「制限されている商品およびサービス」
(<https://transparency.fb.com/ja-jp/policies/community-standards/regulated-goods/>) に、コンテンツの投稿における禁止事項として以下が記載されていた。

「非医療用の薬物（意図された医療目的のために使用されていない、または気分の高揚を得るために使用される薬物または物質。これには前駆的化学物質、またはこのような薬物の生成に使用される物質が含まれます。）」

- 以下に該当するコンテンツ非医療用薬物の購入、販売、取引、取引調整、寄付、贈答、または要求を試みるもの
- コンテンツの投稿者が自身で、または他の人を介して非医療用薬物を購入、取引または取引調整していることを認めるもの
- 回復、治療、または薬物使用をやめるためのその他のサポートについて、それらを受けていることを認めたりそれらに言及したりすることなく個人使用を認めるもの。こうしたサポートなどについて認めたり言及したりするコンテンツにおいては、非医療用薬物について肯定的に発言した

り、その使用を奨励したり、その手配をしたり、またはその作成・使用を指導したりしてはなりません。

- 非医療用薬物の手配または宣伝(非医療用薬物について肯定的に発言したり、その使用を奨励したり、または使用・作成を指導したりすることをいう)を行うもの

「医薬品(処方箋を必要とする薬物、または医療従事者による投与が必要な薬物)」以下に該当するコンテンツ

- 以下の場合を除き、医薬品の購入、販売、または取引を試みるもの
 - 教育・議論の文脈の中であることが明確な、ワクチン価格の表示
 - 認可された医療関係の電子商取引事業者が投稿する配送のオファー
- 医薬品の寄付または贈答を試みるもの
- 医薬品を要求するもの(ただし、医学的な文脈の中で、医薬品の手頃な価格、入手のしやすさ、効能について議論するコンテンツを除く)

C-5. LINE

LINEにおける医薬品に関する禁止事項として、「利用規約」(https://terms.line.me/line_terms?lang=ja)の「13. 禁止事項」に、「13.4. 過度に暴力的な表現、露骨な性的表現、児童ポルノ・児童虐待に相当する表現、人種、国籍、信条、性別、社会的身分、門地等による差別につながる表現、自殺、自傷行為、薬物乱用を誘引または助長する表現、その他反社会的な内容を含み他人に不快感を与える表現を、投稿

または送信する行為。」が記載されていた。違反に対する措置について、「10. コンテンツ」に、「10.9. 当社は、お客様が投稿コンテンツに関し法令もしくは本規約に違反し、または違反するおそれがあると認めた場合、その他業務上合理的な必要がある場合、あらかじめお客様に通知することなく、投稿コンテンツを削除する等の方法により、本サービスの利用を制限できます。」との記載があった。

ヘルプセンター

(<https://help.line.me/line/?lang=ja>)で「医薬品」、「出品」、「偽造品」をキーワードに検索を行ったが、投稿時確認事項、禁止事項について、上記以外の医薬品に関する情報は得られなかった。

C-6. TikTok

TIKTOK サービス規約

(<https://www.tiktok.com/legal/page/row/terms-of-service/ja-JP>)において、「5.お客様による本サービスのご利用」の項目に、「お客様が本サービスにアクセスまたは本サービスを利用するにあたり、本規約および適用されるすべての法令を遵守してください。お客様は、以下の事項を行うことはできません。」と記載されており、以下の記載があった。

- 本サービスを、以下に列挙するものをアップロード、送信、頒布、保存、その他利用可能にするために使用すること
 - 他者の著作権や商標およびその他の知的財産権やプライバシー上の権利を侵害するまたは侵害するおそれのある内容
 - 犯罪、危険行為、自虐行為等を構成するもしくは助長する内容、ま

- たは、それらの方法を示す内容
- 適切な免許、資格等なく提供する回答、返答、コメント、意見、分析または推奨

「コミュニティガイドライン」
 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/community-guidelines>) > 「規制対象品と商業活動」
 (<https://www.tiktok.com/community-guidelines/ja-jp/regulated-commercial-activities/>) の「アルコール、タバコ、薬物」の項目に、以下の記載があった。

「成人は、アルコール、薬物、タバコとの関わり方について個人の選択ですが、私たちはこれらの物質の取引や使用には付随するリスクがあります。薬物の娯楽目的での使用や、アルコール、タバコ製品、薬物の取引を描写または助長することは許可されません。私たちは、未成年者がこれらの物質を使用すると、危害を受けるリスクが高まる可能性があることも認識しています。未成年者によるアルコール、タバコ製品、薬物の所有や消費を描写または助長することは許可されません。」

規制対象物質として、処方薬、市販薬、圧縮空気キャニスター (ホイペット)、亜硝酸ポッパーが記されており、許可されないものとして、以下が記載されていた。

- 未成年者によるアルコール、タバコ製品、薬物、またはその他の規制対象物質の所有や消費を描写または助長すること
- 成人によるアルコール、タバコ製品、薬物、またはその他の規制対象物質の娯楽目的での消費を描写または助長すること

- 抗ヒスタミン薬、ナツメグ、亜酸化窒素の容器、シンナー遊びなど、酩酊目的での一般的な家庭用品、または市販薬の乱用を描写すること
- 自家製スピリッツ、薬物、またはその他の規制対象物質の作り方を説明すること
- アルコール、タバコ製品、薬物、またはその他の規制対象物質の取引や購入を助長すること

「規制対象の商品とサービスの取引」として、以下が記載されていた。

「TikTok は違法取引や非正規市場 (ブラックまたはグレーマーケット) の場ではありません。アルコール、タバコ製品、規制薬物、銃器やその他の危険な武器、性的サービス、動物、または偽造品など、規制対象、禁止、または高リスクの商品やサービスの取引を助長することは許可されません。これには規制対象物質や銃器の製造方法の説明も含まれます。」

取引の促進には、規制対象の商品やサービスの販売、購入、リダイレクト、交換、無料サンプルの提供が含まれることが記載されており、「アルコール、タバコ、薬物」の項目で記載されていた規制対象物質に加え、許可されないものとして、「違法薬物、処方薬、市販薬、およびその他の規制対象物質」が明記されていた。

「コンテンツの違反と禁止」
 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/content-violations-and-bans>) において、コミュニティガイドラインに違反した場合、1回違反するたびに、そのアカウントに対して違反宣告が行われること、違反が繰り返される場合、または1度の違反でも重大度によっては、アカウント

トが永久停止されることがある旨、記載されていた。

ヘルプセンター (<https://support.tiktok.com/ja/>) で「医薬品」を検索した結果、「商標と偽造」 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/trademark-and-counterfeiting>)、「TikTok 開発者ツールおよび関連する規約」 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/tiktok-developer-tools-and-related-terms>)、「TikTok 上のブランドコンテンツ」 (<https://support.tiktok.com/ja/business-and-creator/creator-and-business-accounts/branded-content-on-tiktok>)、「著作権」 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/copyright>)、「TikTok の個人アカウントとビジネスアカウント」 (<https://support.tiktok.com/ja/using-tiktok/growing-your-audience/switching-to-a-creator-or-business-account>) などがヒットしたが、医薬品の取引に係る記載はいずれのページでも確認できなかった。「偽造品」や「出品」で検索した結果、上記に加え、「知的財産権」 (<https://support.tiktok.com/ja/safety-hc/account-and-user-safety/intellectual-property>) などがヒットしたが、これらのページにおいて、具体的に医薬品の取引に係る記載は見つからなかった。

C-7. Telegram

Telegram (<https://telegram.org/>) は日本語のページがないため、英語サイトで情報を収集した。

利用規約 (<https://telegram.org/tos/wallet>)

において、法律の遵守について、ユーザーは、適用されるすべての法律に従ってサービスを使用することに同意することが記載されていた。Telegram FAQ (<https://telegram.org/faq>) に、違法コンテンツに関する事項 (Q: There's illegal content on Telegram. How do I take it down?) があつたが、Telegram 上のチャットやグループチャットは、参加者個人用のものであり、Telegram 側は、違法コンテンツに関して処理しない旨と、詐欺師が利用者になりすましている場合の報告先が記載されていた。

プライバシーポリシー (<https://telegram.org/privacy>) において、利用規約違反を防止するために、Telegram が利用者の IP アドレス、使用したデバイス、Telegram アプリ、ユーザー名の変更履歴などのメタデータを収集する場合がある旨記載があつたが、投稿時確認事項等に関する情報は得られなかった。

Telegram には、検索機能が見当たらず、それ以上の情報の収集は困難であった。

D. 考察

本研究で調査した 7 社は、いずれも国際的な企業であり、利用規約の記載が確認できたが、医療・医薬品等に関係のあるポリシーを見つけることは容易ではなかった。利用者が全てを精読することは困難であると考えられた。

Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、TikTok は、利用規約等において、投稿内容について禁止事項が記されており、医薬品や偽造品に関するポリシーがあつた。医薬品に係る記載は規制物品等の項目でよく見られ、医薬品、薬物、違法薬物、処

方薬、市販医薬品、非医療用の薬物など、それぞれ異なる表現であったが、医薬品等に関する記載があった。一部では濫用のおそれがある薬物等が具体的に示されていた。これらのプラットフォームを利用して、医薬品等を販売、購入、取引等を行うことが禁止されていることが確認された。偽造品に関する規約も確認されたが、「偽造医薬品」としての記載は見られなかった。

LINE では薬物乱用を誘引または助長する表現が禁止事項に記載されていたが、医薬品の取引等に関する記載は見られなかった。Telegram でも医薬品の取引に関するポリシーの記載は見られなかった。

Twitter、YouTube、Facebook、LINE、TikTok、Instagram では、ヘルプセンターの検索窓から、キーワードで確認したい内容を容易に検索することができた。Telegram には検索機能がなく、利用規約やポリシーが記載されたページにアクセスすることは容易ではなかった。

利用規約やポリシーに違反した場合の措置として、Twitter、YouTube、Facebook、LINE、TikTok、Instagram では、コンテンツの削除やアカウントの停止等を行うことが記されていた。運営会社によるパトロールまたは利用者による通報システム等により、他の利用者の安全確保に努めていることがわかった。これまでの我々の調査において、医薬品の個人間取引が疑われた投稿が運営会社側から削除され、アカウント警告を受けたり、凍結されたりしていることがあり、運営会社による監視が機能している状況が伺えた。一方、Telegram では、ユーザーのアカウントが詐欺師などに乗っ取られた場合等を除い

ては、運営会社側から対処されない可能性が高いことがわかった。秘匿性が高いことから、医薬品の個人間取引等に利用されやすいかもしれない。

E. 結論

本研究において、調査対象になった SNS のほとんどが、医薬品の販売、購入、取引を促す投稿を禁止していた。利用者が、それらを知らずに各 SNS を利用している可能性がある。各利用者に効果的に注意喚起することが必要であると考えられた。利用規約やポリシーに違反した場合には、当該投稿の削除やアカウント停止の措置をとれることから、監視を強化し、違反行為をより迅速に見つけ、監視・指導できる体制を整えることが必要であると考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 参考文献

1. 株式会社ウェイブダッシュ. SNS 取引アプリ『アズカリ』が「SNS 詐欺への危機意識と安全取引へのニーズ」を調査 SNS 取引経験者の 7 人に 1 人が詐欺被害に約 7 割が「SNS 取引に不安を感じる」一方で過半数が「対策していない」. April 16, 2022. [<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000124.000006408.html>]
2. HuffPost:「グッズ譲ります」SNS の“個人間取引”に潜む社会問題、解決に挑

- むアズカリとは. April 16, 2020.
[https://www.huffingtonpost.jp/entry/azkari_jp_5e8a8f03c5b6cbaf282b7455]
3. 公正取引委員会:(令和2年4月28日)
デジタル・プラットフォーム事業者の取引慣行等に関する実態調査(デジタル広告分野)について(中間報告), (別紙2) 消費者向けアンケート調査結果. p. 87. April 28, 2020.
[https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2020/apr/200428_1.html]
 4. 吉田直子, 木村和子, 前川京子, 秋本義雄, 坪井宏仁, Rahman Mohammad, Zhu Shu: 医薬品等のインターネット販売に対する監視手法の研究. 令和3年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 報告書, 2022.
 5. 【2022年最新】SNSの利用状況まとめ | 日本・世界別のアクティブユーザー数も紹介. December 15, 2022.
[<http://www.ownly.jp/sslab/sns-user-detail>]

